

広島都市学園大学女子バスケットボール部 HCU EAGLES

令和3年4月公式戦に出場する正式な部として創部し、令和3年インカレ中国予選2部全勝優勝一部昇格を果たしました。バスケットボール競技の取組を通して輝く社会の創造に貢献できる力を身に付けることを目的とし、まずは全国大会出場を目標に活動します。応援よろしくお願いします。

【スタッフ】

部長	林 俊雄	(学生部長 子ども教育学科教授)
監督・コーチ	慶徳 克二	(子ども教育学科准教授)
アシスタントコーチ	横田 久美子	(元三菱電機コアラーズ選手)
フィジカルコーチ	上川 紀道	(リハビリテーション学科理学療法学専攻准教授)
アドバイザーコーチ	岡崎 修司	(看護学科特任講師 元広島ドラゴンフライズ選手)
顧問	安部 隆之	(企画室長 子ども教育学科准教授)

【メンバー】

4年生

【子ども教育学科】	関口 奈優	(明誠高出身)	キャプテン
	鷗池 七海	(如水館高出身)	副キャプテン
	科野 有沙	(沼田高出身)	副キャプテン

3年生

【子ども教育学科】	山本 帆夏	(清水ヶ丘高出身)
【リハビリテーション学科】	光本 涼香	(広島皆実高出身)

2年生

【子ども教育学科】	永岡 亜依	(米子南高出身)
	大上 咲来	(高松南高出身)
	森下 穂乃香	(高水高出身)
	木内 一那	(広島高出身)

1年生

【リハビリテーション学科】	中村 優羽	(高松南高出身)
【子ども教育学科】	常松 茉留実	(松江農林高出身)
	畑田 玲奈	(作陽学園高出身)
	土屋 希心	(広島観音高出身)
	牧 彩華	(高松南高出身)
	野崎 想	(広島商業高出身)



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R6.4 NO.17



ピース・フラワープロジェクト「花育」 付属保育園児と一緒に花の苗を植えました

3月13日(水)練習後に付属保育園児と共にペチュニアの苗を植え替えた。広島フラワーフェスティバルの会場を飾る花の苗を育てる活動に、本学子ども教育学部 竹林地 毅 教授が中心となって参加している。この日は、配付されたペチュニアの苗をビ



ニールポッドに植え替える作業を行った。将来教員や保育士を目指すバスケット部員にとっても、保育園児のお世話をさせていただく絶好の機会となった。

最高のブカツ HCU EAGLES マインドマップ更新 4/6 ミーティング



前日に各自で作成したミニマインドマップを持ち寄り、3つのグループに分かれてまとめたり分類したりし整理した。次に各グループでの話し合いを元に全員でひとつのマインドマップを作り上げた。みんなで作ったマインドマップだからこそ「最高のブカツ」をみんなで実現してくれるに違いない。

3年前の創部メンバーで、どんな部活でありたいかと考えマインドマップを作成した。初めて4学年が揃った今年、新たに作り直したいとのことで4月6日(土)のミーティングで取り組んだ。中心のイメージは「最高のブカツ HCU EAGLES」だ。



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R5.12 NO.16



第 59 回三地区大学バスケットボール選手権大会 3 位入賞 12/16~12/18

中国、四国、九州の三地区の大学の覇者を競う大会が 12 月 16 日から 18 日までの 3 日間、愛媛県で開催され、我が HCU EAGLES は 3 位入賞を果たした。予選を勝ち抜き、準決勝の相手は同じ中国ブロック 1 部で競い合う倉敷芸術科学大学であった。昨年の中国新人大会では勝利することが出来た相手ではあったが、改良して間もない組織的な攻撃と 1 対 1 の使い分けに戸惑う場面もあり、苦杯をなめる結果となった。翌日は一戦一戦を大切に戦い抜こうと気持ちを切り替え、松山大学との 3 位決定戦に臨んだ。選手達は相手の攻撃の特徴を見極め、相手エースの得点を最小限に抑えようと全員で守りぬき、3 位入賞を勝ち取った。

12 月 16 日 (土)

予選

HCU	116	35	-	8	54	久留米
		24	-	14		
		32	-	8		
		25	-	24		

12 月 17 日 (日)

予選

HCU	78	23	-	15	68	島根
		18	-	16		
		22	-	18		
		15	-	19		

12 月 17 日 (日)

準決勝

HCU	57	9	-	24	84	倉敷芸科
		15	-	15		
		9	-	25		
		24	-	20		

12 月 18 日 (月)

3 位決定戦

HCU	94	23	-	16	83	松山
		19	-	21		
		24	-	20		
		28	-	26		



試合終了後賞状を手に松前体育館にて



12 月 22 日古澤学長に報告に行きました

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R5.12 NO.15



地域と共に！ 多くの学びをいただく交流

9月23日(土)は練習後の午後、顧問の安部先生と関わりのある車椅子サークル「とまり木」の皆さんと共にスポーツで楽しんだ。チームを組み自己紹介のあとは風船バレーボール、車椅子リレー、ポッチャなど白熱したプレーで大いに盛り上がり、合間には車椅子バスケットも体験させていただいたり、有意義な時間を共に過ごした。



9月23日(土)は練習後の午後、顧問の安部先生と関わりのある車椅子サークル「とまり木」の皆さんと共にスポーツで楽しんだ。チームを組み自己紹介のあとは風船バレーボール、車椅子リレー、ポッチャなど白熱したプレーで大いに盛り上がり、合間には車椅子バスケットも体験させていただいたり、有意義な時間を共に過ごした。

学園祭で小中学生とともにバスケットボール



11月12日(日)コロナの影響で3年間開催されなかった学園祭が盛大に開催された。バスケットボール部の学生も本学で初めての学園祭であった。実行委員会から、子ども達を招いてバスケットボールの楽しさを実感できるイベントを行ってほしいというオファーを受けて、地元宇品小学校のミニバスチームや、中学生のクラブチームの選手に参加していただいた。楽しみながらできる内容を学生は相談し、子ども達に優しく指導してくれた。卒業後に教育者となる学生達にも貴重な経験となった。後半は、小・中・大学生入り交じってのチーム編成で試合を行い、優勝チームには記念 T シャツを贈った。終了後

は、グラウンドの出店でお団子やおしるこをご馳走し、楽しい時間を過ごしていただいた。

福祉事業所製品モニター会で他大学とも交流

12月10日(日)「@っとひろしま！つなげるキャンペーンモニター会」が比治山大学、広島大学、広島修道大学の学生と本学バスケット部の1年生5名を加えて計16名が参加して行われた。県内の福祉事業所で作られた工芸品・雑貨の販売が進むようグループで話し合いコメントを作成した。別々の大学から集まり初めて顔を合わせるメンバーだったがアイスブレイクや、ブレインストーミングを通して仲良くなり楽しく学んだ会となった。



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R5.12 NO.14



令和5年度の軌跡をまとめて報告します

5/4 中国春季優勝大会

2回戦 HCU 66-98 倉敷芸術科学大
5～8位決定戦 HCU 97-91 島根大
HCU 89-54 広島文教大 結果5位

5/28 全日本新人中国予選 HCU 56-78 倉敷芸術科学大

7/15 中国新人 1回戦 HCU 63-52 岡山大
2回戦 HCU 49-68 広島大
5～8位決定戦 HCU 75-56 島根大
HCU 65-92 IPU 結果6位



夏季遠征 8/8～8/10 in 大阪大谷大学

大阪大谷大学の先生・学生の皆さんに大変お世話になった。
大阪教育大学、明浄高校とも試合をさせていただいた。最終日は桃山学院教育大学にお世話になった。温かく迎えていただいた全ての人に感謝！感謝！

8/21 テレビで本学オープンキャンパスの広報

3年生 関口と科野が広島テレビ本社にて「まちかど伝言板」に出演し、本学のオープンキャンパスとバスケットボール体験会をPR。8月22日に放映され、オリジナルTシャツプレゼントには700を超える応募があったそうである。



8/5、8/26 バスケ体験会開催

8月5日に10名、8月26日には3名の高校生に参加していただいた。本学で行っている練習を体験したのち、大学生と高校生の混成チームを作りそれぞれで作戦を立てて試合を行った。高校生と共に楽しい時間を過ごした！



第 75 回全日本大学バスケットボール選手権大会中国予選会 9/8~11/5
1 部 5 位 入替戦では島根大学に勝利し 1 部残留

10 月 8 日 (日)

HCU 48	14	-	20	88 IPU
	18	-	37	
	8	-	16	
	8	-	15	

初戦ということもあり、ゲームの立ち上がりに固さが見え前半で大差を付けられてしまった。ディフェンスの甘さが目立ち、1 対 1 のディフェンス力と組織的な守りに課題が残る試合であった。

10 月 21 日 (土)

HCU 92	24	-	22	100 文化
	21	-	25	
	28	-	26	
	19	-	27	

練習してきたオールコートのディフェンスが功を奏し、3Q 終了時点で同点。4Q 残り 6 分あたりからパスミス、シュートミスが続き徐々にリードを奪われた。最後に関口が意地の 3P を決めたが、善戦及ばなかった。

10 月 28 日 (土)

HCU 75	17	-	25	76 芸科
	22	-	21	
	20	-	17	
	16	-	13	

オールコートとハーフコートのマンツーマンディフェンスを使い分けながらの前半であったが、1Q のビハインドが後半まで響く結果となった。後半はマンツーマンとゾーンを使い分けながら相手を翻弄させたが、あと一歩のところまでイージーミスからリードを許してしまった。

10 月 29 日 (日)

HCU 67	13	-	31	87 広大
	22	-	19	
	17	-	20	
	15	-	17	

前日の試合で負傷したキャプテン関口を休ませたの戦いとなった。ペイントエリアにペネトレイトされてキックアウトからのシュートを多く決められ点差を広げられた。

11 月 5 日 (日)

HCU 87	16	-	12	66 島根
	26	-	11	
	18	-	18	
	27	-	25	

負けたら来年のインカレの挑戦権さえも失うというプレッシャーを背負っての戦いのためか、終始動きは固く存分に自分たちの力を出し切れたとは言えない戦いではあったが、ディフェンスと走りで勝つと決めた選手達の意地が勝利を導いた。

1 ヶ月に及ぶインカレ予選の戦いを終え、目標としたインカレ出場を果たすことはできなかった。しかし昨年から今春までは 20~30 点差で敗れてきた相手に、対等に渡り合い戦った選手達の努力とひたむきさに拍手を送りたい。1 部では不戦勝の周南公立大以外には敗れるという残念な結果ではあったが、選手達は早くも来年の雪辱に向けて目を輝かせている。どのチームも 4 年生主体のチームだったが、創部 3 年目の本学の選手達は決してひるむことなく戦い抜いた。初めて 4 学年揃っての戦いとなる来年に期待は膨らむ。

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R5.4 NO.13



HCU EAGLES に新たな仲間が加わりました



元気な新入生 8 人が HCU EAGLES に加わりました。令和 3 年 4 月に創部して以来、少ない人数で練習を工夫してきましたが、3 月 20 日から 3 学年そろって新チームのスタートを切ることとなりました。

～新入部員紹介～

①名前 ②出身高校 ③コートネーム ④ポジション ⑤得意なプレー ⑥抱負

① 竹内弥音
② 如水館高校
③ ネネ
④ パワーフォワード
⑤ ランニングプレー(パス&ランが好きです)
ボールをもらってからの 3P
⑥ 1 年生みんなでコミュニケーションをとり、いい雰囲気作りをする。個人としては、今はシュートを自分のタイミングで打つだけになっているから、決めきることを頑張ります。

① 柴田姫那
② 作陽高校
③ アキ
④ 1・2・3 番
⑤ スリーポイント、ドライブ
⑥ インカレに出場するなかで自分も試合に出てチームに貢献する。

① 森下穂乃香
② 高水高校
③ ヨウ
④ シューター、F
⑤ スリーポイント、パス
⑥ どのポジションでもできることを生かして、コートに立ったら精一杯プレーして、点を取りまくる!!!

① 山根百華
② 出雲北陵高校
③ 遙(ハル)
④ フォワード
⑤ スリーポイント
⑥ スリーポイントとドライブを沢山練習してチームの役に立てるように頑張ります!!!

① 木内一那
② 広高校
③ フウ
④ 1, 2 番
⑤ ディフェンス、ルーズボール
⑥ 自分にできることを考えて、日々目標を持って練習してチームに貢献できるように頑張ります。

① 永岡亜依
② 米子南高校
③ サク
④ センター
⑤ 合わせからのシュート
⑥ 勉強と部活の両立をがんばりたいです。

① 大上咲来
② 高松南高校
③ トップ
④ 2~5 番
⑤ スリーポイントとリバウンド
⑥ 大学でもリバウンドがんばります。

① 児玉茜
② 福山葦陽高校
③ あかね
④ フォワード
⑤ ドライブ
⑥ いろいろなプレーができるように頑張ります!!!

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R5.3 NO.12



マンダラチャート作成に挑戦

令和5年3月11日(土)練習前に大谷翔平も作ったというマンダラチャートなるものをみんなで作りたいとの声から、令和5年度に向けて全員で作成することになった。原田隆史氏の「目標達成ノート」を参考に作成した。まずは今年度達成したい目標を中心に記入。その周りの8つの枠に達成するために必要な要素を書き込んだ。各自が付箋紙に思うがままに必要なと思われる要素を記入し、全員でホワイトボードに付箋紙を貼りながらKJ法でグルーピングした。8要素を書き込んだ次には、それぞれの要素に関係する行動目標をまた付箋紙に記入し、KJ法で8つにグルーピングする作業を繰り返すこと8回。合計64の行動目標が記入された。思いのほか時間がかかり二時間半にも及ぶ作業となった。完成したものをみんなでも共有し実行に移す決意を固めた。日々の練習内容を考える際にも有効に活用している。

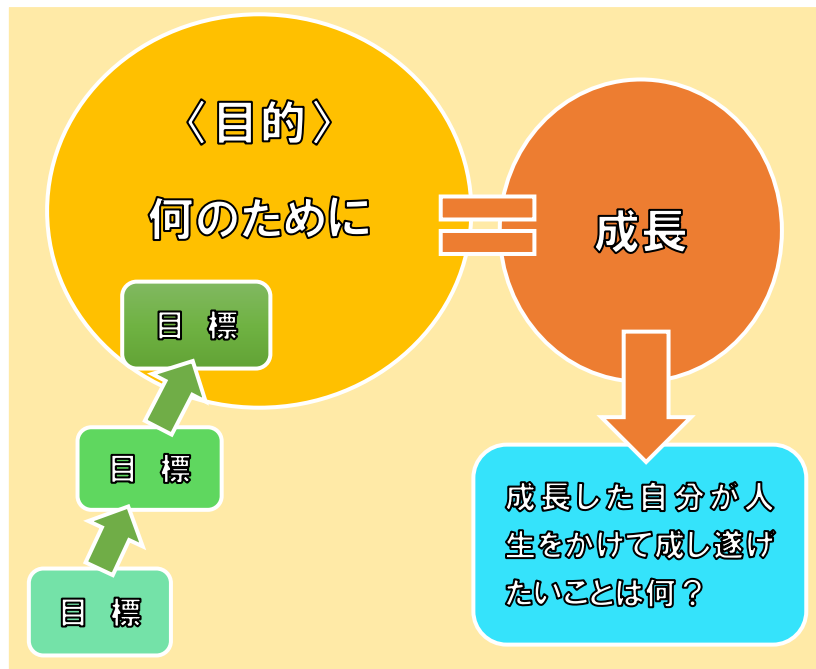




大学でバスケに取り組む意義

令和5年1月10日(火)のミーティング。年末年始のオフ期間を終えて練習再開にあたり「大学でバスケに取り組む意義」についてみんなで考えてみた。

「何のために大学でバスケに取り組んでいるのか？」という質問を投げかけた。私達は1年間の目標を決めてバスケットボールに取り組んでおり、また大会の度に目標を定めてもいる。目標を達成するためにどんな練習をし、どんな戦い方をするというのも選手同士で意見を出し合い決めていた。今回のミーティングでは、その目標を何のために設定して頑張るのかということ



を考えてみた。いろいろな考えが学生から出た。好きだから。勝つため。と表現した者もいたが、好きでないと思う時もあるのにやっている。勝てない時もあるのにやっている。何でだろうと考えたときに、「成長」という言葉が発せられた。何かしら成長していると実感できるからやめずに頑張っているのではないか。目標は叶うときもあれば叶わないときもある。ただし目標に向かって計画を立てたり、心・技・体それぞれの在り方を考え実行したりする過程が成長を促すから意味があるのではないかという結論に至った。バスケに取り組む目的をそれぞれの「成長のため」とチームみんなで共有することを決めた。目的を明確に意識することで判断に軸ができて、行動にブレがなくなる。そしてさらに、成長したあかつきに、人生を通じて何ができたなら自分は幸せと思えるのかと考えてみようと言を進めた。これについては、人それぞれでありみんなで共有しなければならないことではない。今すぐには明言できない人もしっかり考えてみるのが大事だと伝えミーティングを終えた。

選手募集の時に配布しているバスケットボール部のパンフにはチームアイデンティティを、「バスケットボール競技を通じて自己を管理し、他と協働して課題を解決する力を身に付けさせ、輝く社会の創造に貢献する人材を輩出するチーム」と記していることも思い出してみたい。

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R4.11 NO.9



2022年第8回スペシャルオリンピクス日本夏季ナショナルゲーム・広島ボランティアに参加

知的障害のある人たちが日本全国から集うスポーツの祭典が広島で開催された。バスケット部員も11月6日7日の2日間ボランティアとして参加した。バスケットボール競技が行われる広島グリーンアリーナと水泳競技が行われる呉市営プールに分かれての参加となった。アスリートに付き添い2日間を競技会場で共に過ごす「DAL」という役割であった。大会ボランティアの中でも最もアスリートの皆さんと近くで接する役割に、部員も最初は緊張している様子だったが、試合前のアップでボールをパスしたり、試合中にドリンクのお世話をしたり、応援したりするうちに、試合の合間に雑談をしたりする仲にまでなった者もいた。私自身も2日間観戦し、シュートを入れて喜ぶ選手やそれを応援する家族や関係者の人々の近くにいると、心が温くなる思いであった。



鹿児島県選手団の皆さんと

表彰式でも忘れられない場面に遭遇した。その直前に何があったのか分からないが、一人の選手が表彰台への登壇を拒んでいた。チームメイトはすでに表彰台に上がってメダルを受け取っていた。メダル授与者の有森裕子さんが、椅子に座ったままの選手の所まで行き、表彰台に上がろうと声をかけたのである。頑なに拒む選手と静まりかえった会場に時間だけが過ぎようとしたそのとき、有森さんは表彰台にすでに上がっている選手達を呼び、一緒に上がるように誘ってと声をかけたのである。2、3名の選手が表彰台から降り、彼の元へ近づき一緒に上がろうと誘った。それまで拒み続けていた彼は一変し、誘ってくれた仲間に抱きつき喜びを表現した。そのまま仲間に抱きかかえられて表彰台に登壇し、メダルを有森さんからかけてもらったのである。会場に盛大な拍手が湧き起こり、先ほどまで登壇を拒んでいた彼も嬉しくもあり、照れくさそうでもありといった表情で記念写真に収まっていた。表彰台でメダルを授与し讃えてあげたいという有森さんの思いと、彼を思いやる仲間の思いが会場全体を感動の渦に巻き込んだ場面であった。



呉市の水泳会場にて



後半開始前のベンチにて

～部員の感想 ボランティアを終えて～

私がボランティアで担当したのは熊本のチームでした。熊本のチームはコーチたちと選手たちの仲が良く、常にお話しをしていました。また試合になるとコーチは、挨拶や身だしなみに厳しく、コートの中で走って戻ることをしなかったら走りなさい！と注意をしたり、自分勝手なプレーをしていたら、その人に出しやすいパスをしろ、自分のやりたいようにやるのはキャプテンではないなどと厳しい声掛けではっぱをかけていました。チームスポーツにとって大切なことを選手に伝わるように、分かりやすく具体的に声かけをしていました。

試合の時と普段とを切り替えることでコーチと選手の間に信頼関係が生まれるんだなと思いました。私も教師になった際には怒らないといけない時は厳しく言えるよう、切り替えながら子どもと接していきたいと思いました。

今回の知的障がいの方々に関わって、みんな心優しくて、面白くて、沢山話す方もいてとっても楽しく、本当に貴重な体験をすることができました。(2年 関口奈優)

今回のボランティアで私は普段出来ないことを体験した。初めは障がい者のスポーツといっても想像が出来なかった。この二日間を通じて、私たちが普段やっているバスケットと変わらないと思ったのが正直な感想だ。しかし、試合に入る前の一人ひとりに対する周囲の配慮がすごいと感じた。試合に集中するために試合の間(2日間)は親と会わせないのだそう。気が散ってしまうと切り替えるのが難しいからなのかなと私なりに考えた。付添の先生がボランティアの私達にも一人ひとりの選手の性格や特徴をその都度細かく伝えてくださったお陰で、選手に対してすごく接しやすく感じ、沢山話をする事が出来た。試合前のアップでゲームをしたり、試合中もハイタッチをしたりしてとても楽しい時間を過ごすことが出来た。選手同士で出来ないことを互いにカバーし合ったり、「大丈夫だよ！」「出来たよ」「出来るよ」「もう少しこうしたらいいよ」等の声かけをして、沢山コミュニケーションが取れており、試合中みんなが楽しそうだった。(2年 鶴池七海)



熊本県選手団の皆さんと



試合中のタイムアウト



試合前のアップでパス出し



奈良県チームのベンチにて

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R4.10 NO.8



全日本大学バスケットボール選手権中国予選 I・II部入替戦 令和4年10月29日(土)

HCU 86 $\left. \begin{array}{l} 28-23 \\ 15-16 \\ 27-13 \\ 16-16 \end{array} \right\}$ 68 広島文教

入れ替え戦に回ることは本意ではあったが、気持ちを切り替えて、II部1位の広島文教大との試合に臨んだ。来年インカレに出場するためには、もちろん負けるわけにはいかない戦いである。振り返れば



パワーあふれる科野のドライブ



西のスリーポイント



試合を終えて差し入れをいただく選手



I部リバウンド王の表彰状を持つ溝口

昨年、II部1位となった我がHCU EAGLESはI部6位の広島文教大学と対戦し29点差を開けて勝利しI部昇格を決めた。その後広島文教大学にも強力な1年生が加入し、春の中国大会では、勝ちしはしたものの10点差にまで差を縮められていた。油断できる相手ではないことは選手達も良く分かっていた。試合前のミーティングでは、前半まではシーソーゲームを余儀なくされるだろうが、辛抱強く守っていれば必ず抜け出す機会が訪れると話していた。3Qまさにその時が来た。4点リードで迎えた3Qだったが、関口、西のジャンプシュートから始まり、里が得意のスチール、関口、西のスリーポイント、溝口のフックシュート等で徐々に点差を広げ70-52で3Qを終えた。4Qでは一時10点差まで差を縮められる場面もあったが、肝心な場面で里のスリーポイントが決まり、最後は科野のドライブインからのシュートで締めくくった。終わってみれば18点差での勝利であった。1年生光本もプレータイムこそ短かったが、2Qでは、ドリブルハンドオフかを見せてそのままドライブインを決めるなど、相手ディフェンスの動きを的確に読んだプレーが印象的であった。故障中の鷓池はベンチで常に大きな声で仲間を励まし続けた。同じく故障中の山本は試合の動画を撮影し次の試合に向けた確認に役立てた。マネージャーの我も次の対戦相手の動画撮影や、スコア記録のみならず、選手が試合に集中できるよう縦横無尽の働きを見せた。チームの全員が自分の役割を見つけ、出来ることに全力を尽くしたことを試合結果以上に誇らしく思う。

今大会出場に当たって保護者を初め、大学及び学園の教職員の皆様に多大なるご支援とご協力をいただいた。お世話になったすべての皆様に感謝したい。

2人の故障者も近々復帰できるだろう。新たに迎える新入生を加えて、来季には益々成長したHCU EAGLESをお見せしたいと思う。

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R4.10 NO.7



全日本大学バスケットボール選手権中国予選 令和4年10月9日(日)~29日(日)

昨年は2部を全勝優勝し入替戦も制し1部昇格を果たした。創部2年目、今年は初めての1部リーグ参戦であった。他大学はどれも3・4年生を主力とする中、我がHCU EAGLESはまだ1・2年生のみ、しかも2名を故障で欠いたため、6名で5試合を戦い抜いた。最終Qでは追いつくために、ある面ギャンブルに出たために、最終得点こそ開いたが、どの試合も3Q、4Qまで勝敗の行方が分からない接戦を演じた。身長差は認めざるを得ないが、それにもかかわらず果敢に挑む選手達を本当に頼もしく感じられた。何より最後まで諦めず挑戦し続ける選手達の姿は会場の多くの人から賞賛をいただいた。5月の大会では29点差を開けられた周南公立大には今回3点差で敗れはしたものの、大きく差を縮める結果となった。来年は新入生も加えて、さらにパワーアップした戦いが期待される。そのために次週に控える入れ替え戦を全力で戦いたいものである。

HCU 65 $\left\{ \begin{array}{l} 13-24 \\ 18-17 \\ 15-32 \\ 19-32 \end{array} \right\}$ 105 IPU

HCU 87 $\left\{ \begin{array}{l} 23-34 \\ 11-19 \\ 26-21 \\ 27-33 \end{array} \right\}$ 107 広文化

HCU 57 $\left\{ \begin{array}{l} 14-19 \\ 12-15 \\ 17-12 \\ 14-14 \end{array} \right\}$ 60 周南公立

HCU 71 $\left\{ \begin{array}{l} 13-23 \\ 14-23 \\ 17-29 \\ 27-23 \end{array} \right\}$ 98 倉芸科

HCU 79 $\left\{ \begin{array}{l} 19-28 \\ 22-27 \\ 20-23 \\ 18-31 \end{array} \right\}$ 109 広島大



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R4.7 NO.6



準優勝 中国大学バスケットボール新人大会 令和4年7月16日(金)~18日(月)

出場チームをA、Bの2つのブロックに分けて大会は開催された。Bブロックでは、広島大学が覇権となった。その影響もあったか、決勝は広島文化学園大学と広島文教大学で行われ、広島文化学園大学が優勝した。Aブロックでは環太平洋大学Aが順当に勝ち上がり決勝へと駒を進め、我がHCU EAGLESも1回戦山口大学、準決勝倉敷芸術科学大学を破り決勝へと駒を進めた。決勝では環太平洋大学Aに敗れはしたものの、たくさんの成長を見せてくれた選手たちに拍手を送りたい。

1回戦			
HCU 121	$\left\{ \begin{array}{l} 27-12 \\ 31-16 \\ 26-12 \\ 37-7 \end{array} \right.$	47	山口大学

目指すべき姿をひたすらに追い求める姿勢には結果にかかわらず清々しさを感じるものだが、前半はその期待を裏切るような残念な姿を見せてしまう結果となった。ハーフタイムには選手たちにそのことを伝えた。すぐ

に理解し改めることができるのが良いところではあるが、戦う相手はいつも自分自身であるから成長があり、バスケに取り組む意味があるのだということをもう一度思い出すきっかけにして欲しい。

準決勝			
HCU 77	$\left\{ \begin{array}{l} 21-16 \\ 13-18 \\ 22-10 \\ 21-19 \end{array} \right.$	63	芸科大

必ず勝つという気迫が途切れることがなかった。これ程選手たちを頼もしいと感じたことはなかった。粘り強いディフェンスとリバウンドでボールを奪い、抜け目ないオフェンスが功を奏した。組織的なディフェンスとオフェンスにはまだまだ課題が残る試合であった。

決勝			
HCU 49	$\left\{ \begin{array}{l} 10-24 \\ 11-20 \\ 9-23 \\ 19-14 \end{array} \right.$	81	I P U

試合前に相手の攻撃を分析し、どう守るかを真剣に打ち合わせをする選手たちの姿があった。気迫と集中力では負けていなかったが、相手の攻撃力がさらに上回っていたと言わざるを得ない。ディフェンス力を高めることと、相手の守りの変化にも余裕を持って対応できるようになれば、また違った展開が期待できるのではないだろうか。



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R4.4 NO.4



2022年第8回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島 採火式・分火式ボランティアに参加



目標の一つに掲げています。そのためにも、大学や地域に貢献する活動を行っていきと決めて昨年から活動を始めました。11月の本番でも参加者や観戦する人に楽しんでもらえるよう、ボランティアとして参加させていただく予定です。

知的障害がある人のスポーツの国内大会「スペシャルオリンピックス」が今年11月に広島県で開催されます。開催を前に、大会の安全と成功を祈願する採火式が広島平和公園で行われました。HCU EAGLESも全員でボランティアとして参加しました。女子マラソンでオリンピックメダリストの有森裕子さんや緒方孝市前広島東洋カープ監督の手により採火され、その後トーチは本通りを抜けてグリーンアリーナまでリレーされ、各県の代表へと分火されました。バスケットボール部員は、大会の幟を持って会場の整理や大会PRを行った後、分火式会場でも案内役を務めました。

HCU EAGLESは皆さんから応援されるチームになることを



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R3.11 NO.3



第 73 回全日本大学バスケットボール選手権中国地区予選 1 年生軍団が初出場にして 2 部全勝優勝 1・2 部入れ替え戦を制し 1 部昇格決定

2 部の総当たり戦 6 試合を勝ち抜き、全勝優勝を遂げた HCU EAGLES は 10 月 30 日 1・2 部入れ替え戦に駒を進め、1 部 6 位の広島文教大学と対戦した。

1Q こそ堅さが見られ、11 対 17 と 6 点のビハインドでの立ち上がりであったが、2Q から積極的に 1 対 1 を仕掛けることで徐々に堅さが解け、自分たちの試合運びに持ち込むことができた。前半を終えてみれば 37 対 24 と 13 点差をつけて折り返すこととなった。

後半も攻撃の手を緩めることなく次第に点差も開き、終わってみれば 92 対 63 と 29 点差をつけての勝利となった。

相手の 1 年生エース 2 人をいかに抑えるかが重要な課題となる一戦であったが、関口、科野をはじめチーム全員で守りを固めたことが勝因の一つでもある。前週の練習では、この 2 人の攻撃を防ぐディフェンスを色々と考え、選手とも知恵を出し合った。しかし 7 人の部員では試すことは不可能であったため、急遽比治山中学校や、広島商業高校に練習試合をお願いすることとした。平日にもかかわらず両校とも快く引き受けていただいたことに感謝である。お陰でそれらの守りを試してみることができた。特に広商戦では、あらゆるパターンを 10 分ずつ試してみた。しかし、作戦倒れになる可能性が高いことを実戦してみて、感じざるを得なかった。結論としてノーマルなマンツーマンを主軸として戦うことが今の私たちには一番いいということをもみんなで共有し、よりよいマンツーマンディフェンスをしようとした。しかしこの日に試してみなかったら、本番で取り返しのつかない失敗をするところであった。力を貸していただいた皆さんと共に得た 1 部昇格である。

10 月 30 日(土) 広島文化学園大学郷原キャンパス体育館

広島都市学園大学 92	$\left. \begin{array}{l} 11-17 \\ 26-7 \\ 24-19 \\ 31-20 \end{array} \right\}$	63 広島文教大学
-------------	--------------------------------------------------------------------------------	-----------



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R3.10 NO.2



第73回全日本大学バスケットボール選手権中国地区予選

2部全勝優勝

10月30日1・2部入れ替え戦へ

中国大学バスケットボール連盟は1部と2部に分かれ、今年度からスタートした我がHCU EAGLESは2部からのスタートであった。各部とも総当たりのリーグ戦を行い、2部の上位2チームが1部の下位2チームとの入れ替え戦を行い勝利すれば来年度から1部昇格となる。インカレ(全日本大学バスケットボール選手権大会)は1部の上位2チームが出場権を得る。

HCU EAGLESの選手達は今大会の目標を2部全勝優勝1部昇格と定め大会に臨んだ。

10月2日(土) ジップアリーナ岡山

広島都市学園大学 104	}	26-13	}	63 山口大学
		19-8		
		26-24		
		33-18		

終始1-2-2ゾーンで守る山口大学に対し、ゾーンオフenseを実戦で試す絶好の機会となった。マンツーマンを攻めるのと同じようにゾーンを攻める練習もオフenseには必要であるが、順序からするとついあと回しにしがちな練習でもある。我がHCU EAGLESも練習をしてはみたが、5対5をするにも選手7人では何とも困ってしまった。ところが9月26日には、部員の友だちや、姉妹のチームメイトの他、広島皆実高校の卒業生も練習に参加してくれて練習台になってくれた。お陰である程度の形にすることができ、この試合で発揮することとなった。助けてくれた多くの人達のお陰もあっての勝利であり、皆さんにただ感謝である。

10月3日(日) ジップアリーナ岡山

広島都市学園大学 92	}	20-16	69 安田女子大学
		26-16	
		23-14	
		23-23	

前回の中国大会でも対戦していたのだが、今回はメンバーが全然違っていた。大学の大会の恐ろしさを初めて経験した。前ははまだ入部していなかったのか、メンバー表にはなかった選手が続々と出場し、思わぬ苦戦を強いられた。個々の能力もうまさもあり、油断するとすぐに得点を許してしまった。終始集中力が求められる試合であったが、科野のジャンプシュートを始め、全員で攻めることで少しずつ得点を引き離すことができた。

10月9日(土) 水島緑地福田運動公園

広島都市学園大学 67	}	20-16	58 岡山大学
		21-18	
		15-18	
		11- 6	

岡山大学は、前の週にうちの試合の直前に同じコートで試合していたため、しっかりと観察することができた。オフェンス・ディフェンス共によく練習しているチームだと感じた。しかも練習したであろうことがしっかりコートで表現できていた。楽には勝たせてもらえない相手だと感じた。この一週間でしっかりその対策をして試合に臨んだ。鵜池の1対1や里の3ポイントで少しずつペースを掴んでいくかに見えたが、4Qまで気を抜けない展開となった。前の週とはまた違ったオフェンスを用意するなど岡山大学の頭脳戦に感心した試合であった。

10月16日(土) ジップアリーナ岡山

広島都市学園大学 90	}	24-10	46 島根大学
		28- 9	
		18-13	
		20-14	

広島観音高校出身で島根大学の1年生エースをどう抑えるかが鍵となる戦いであった。関口が完璧に押さえ込み、徐々に戦意を喪失していく相手に最後まで手を緩めず戦い抜いた。鵜池のインサイドでの得点がチームに勢いをもたらした。

10月16日(土) シップアリーナ岡山

広島都市学園大学 90	【	13-16	】	49 川崎医療福祉大学
		21- 8		
		27- 7		
		29-18		

前日の試合で本学のディフェンスも良くなったかに思えたが、ボールサイドのみならずオフボールでの動きを止めない相手には、まだまだ未熟と言わざるを得ない内容であった。しかし焦ることなく自分たちの練習してきたことを表現し、キャプテン西を中心に、速攻で点差を広げることができ、徐々にこちらのペースに持ち込むことができた。

10月24日(日) オークアリーナ

広島都市学園大学 108	【	30-15	】	49 岡山理科大学
		24- 8		
		29-15		
		25-11		

練習中に科野が左親指を負傷したため、急遽瀬塚をスタートに起用しての戦いとなった。瀬塚は9月にマネージャーとして入部したが、こんな時もあるかと選手登録をして、部分的に練習にも入って準備してくれていた。また、溝口は故障からの回復の様子をうかがいながらプレー時間を少しずつ増やし、次週の入替え戦を視野に入れた試合をすることができた。里の3ポイントと西のドライブは圧巻で大量の得点を重ねた。

中国大学バスケットボール連盟2部の7チームによる総当たり戦を終え、6戦全てを危なげない試合で勝利することができた。9月に部員が一人加わり、7人の戦士達は目標に向かって突き進んだ。大会を通じて1部のチームの試合を観戦するにつけ、来年はあの1部の舞台で戦いたいという思いを強くしたに違いない。

今大会の最終戦となる入れ替え戦を10月30日(土)に控え、自分たちの力を出し切って熱い戦いをしてくれることを期待したい。

バスケットボール体験会 令和3年7月4日(日)

令和3年7月4日(日)バスケットボール体験会を開催しました。

19名の高校生と9名の保護者の方々に広島都市学園大学宇品キャンパスの体育館に足を運んでいただきました。

本学は医療従事者や保育及び教育に携わる人材を育成します。学生には一人ひとりにリーダーシップやコミュニケーション力を身に付けることが要求されます。その意味でも、参加してくれた高校生に楽しんでバスケットボールに取り組んでもらえるような声かけや気配りを実践する良い機会となりました。

個人技に関するトレーニングを行ったあとで、3チームに分かれ大学生のリーダーシップのもとで、ゲームの作戦を立て、総当たりのミニゲームを行いました。自分たちでどう戦うかを相談し、実践し、修正することで、本当のスポーツの楽しさを体感してもえたのではないのでしょうか。

大学生にとっても、参加してくれた高校生にとっても少しだけ成長するチャンスを得た楽しい時間となりました。参加していただいた皆さんに感謝！



HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R3.07 NO.1



第 47 回中国大学バスケットボール選手権春期優勝大会を終えて

今大会は 5 月の連休に開催される予定であったが、コロナウィルス感染症感染拡大のため延期され、完全無観客で 7 月 9 日から 11 日までの 3 日間で開催された。広島都市学園大学は今年 4 月にチームが創設されて初めての大会参加であった。各チーム 1 日 1 試合だけという限られた試合数で開催されることとなったため、順位を決めるトーナメントではなく、変則的な組み合わせで開催されることとなった。

本学は初参加ということもあり、前回大会 1 位の広島大学が初戦という組み合わせとなった。全国でも強豪校出身の選手をそろえる広島大学に対し、どこまで戦えるかが楽しみな大会ではあったが、コロナによる練習休止が開けた翌々日、6 月 16 日にキャプテン西が右膝を負傷し、7 月 4 日には副キャプテンの関口が高校との練習試合で足首を捻挫し、元気な選手は 3 人しかいないというまさにこちらにも緊急事態での大会参加となった。大会の棄権も考えたが、医師からは、試合前に痛み止め注射を打って参加できるとの診断を得たこともあり、棄権は取りやめることとした。

監督として今大会の最大の目標は、これ以上怪我を悪化させないことと定めざるを得なかった。選手は勝ちたいと思っているし、大学のチームの中で、自分たちがどこまでできるかを試したいと思っていることはひしひしと感じてはいたが、故障者の負担を最大限少なくして戦うことを念頭に置いた大会となった。

7 月 9 日初戦対広島大学では、さすがに試合経験の豊富さを見せつけられた。身長 mismatch を突いた得点のみならず、左右の展開の早さからディフェンスの遅れを生じさせ、巧みな攻撃を仕掛けてきた。本学もマークマンを交代するなどして対応し、関口が 5 本の 3 ポイントを決めるなどと健闘したが、着実に点差を開けられ、最終的には 70 対 49 で敗れた。もしも選手のコンディションが万全で、さらに 4 月に左膝を故障して今回はマネージャー業に専念してくれた溝口が復帰できたときには、もう少しいい試合ができるのではないかという手応えは感じられた。もちろんディフェンスをまだまだ強化する必要があるし、オフェンスも練習していることが徹底できるよう、さらに練習が必要であるという課題は残されている。

広島都市学園大学 49	}	7-18	}	70 広島大学
		12-16		
		7-15		
		23-21		

7月10日敗者戦1 戦目対安田女子大では、前日キャプテン西が膝を痛めていた右足の足首をさらに捻挫したため、ますますの緊急事態となった。故障者が動かなくてすむようなゾーンディフェンスを急遽一つ加えて対応すると共に、故障者には他の選手をうまく生かすプレーを覚えるよう要求した。科野、鶴池が得点を重ね、結果としては点差を大きく開けて勝つこととなった。

広島都市学園大学 92	}	17-9	55 安田女子大学
		18-13	
		36-22	
		21-11	

7月11日敗者戦2 戦目対広島文教大学。今年中国2部からのスタートとなる本学にとっては、今後重要な対戦相手となる可能性のある相手である。選手のコンディションは前日と変わらないため、ディフェンスをどの様に工夫するかが鍵となる一戦であった。今年度広島文教大学は全国大会出場経験のある高校の選手が複数人入学している。簡単には勝たせてもらえないと考え、戦況をみながらディフェンスを色々工夫した。50-39で前半を折り返し、昨日より少し動きが軽くなったキャプテン西の得点を始め、里の3点シュート等で後半も少しずつ点差をひろげていった。終わってみれば15点差での勝利であった。

広島都市学園大学 91	}	23-24	76 広島文教大学
		27-15	
		22-18	
		19-19	

今大会は大変なチームコンディションの中での戦いとなったが、選手は今できることに全力を傾け、チーム全体で試合に向き合った。ミーティングでは、選手それぞれが感じた課題を全員で共有し、試合で少しでも改善しようとする姿が見られた。



どうしてもディフェンスから逃げてしまう選手も、強くなろうと自分と戦う姿が見られた。まだまだディフェンスや、ボックスアウトがいい加減になってしまったり、チームオフェンスが、チームとして未完成であったりと課題は山積みではあるが、これからの練習でやるべきことを確認できた大会であった。まずは故障を治し、コンディションを整えるところからスタートしたい。